



2022年11月1日発行
公益財団法人とちぎYMCA
〒320-0411
宇都宮市松原2-7-42
Tel 028-624-2546
Fax 028-624-2489
www.tochigiyymca.org
発行人 / 塩澤 達俊
編集人 / 公益財団法人とちぎYMCA

YMCA News

11



「わたしができる2つの行動」

～111本の木を読んで～

表紙の写真から：2019年、インドスタディーツアーにて。とある孤児院で生活する少女。

「スンドルくん。つらいね。お母さんは見えないけれど、そばにいてくれるよ。」
ひとりじめするために、つらい水くみを手伝うくらい大好きなお母さんが、とつぜんしんでしまうなんて、どれだけつらいことでしょう。木にだきついて近所のお姉さんなどにだきつかなかったのは、もっとかなしくなるからなのでしょう。わたしもきょ年、いつもそばにいてくれたおばちゃんがつぜんなくなりました。わたしはさみしくなると『おばちゃんはいつもわたしのそばにいてくれる』と思うようにしていました。おばちゃんはいつもいてくれたから、すがたが見えなくなっただけ。スンドルくんもそうしょう？

スンドルくんが大人になって子どもが生まれ、もう木にだきつかなくてすむだろうと安心しました。ところが今ではスンドルさんのむすめが病気で死んでしまいます。どうしてそんなに人がなくなるのか母にきいてみると、「インドでは、女性はけんこうでなくてはいけないらしくて、具合が悪くても病院に行かないんだって。それもあるのかな。」

よくわからず、首をかしげるわたしに母はSDGsインデックスというページを見せてくれました。111本の木と一番かんけいがありそうな『16りのゆたかさも守ろう』を見ると、『大きな題がのこる』になっていて、動きもよくないようです。何より、インドは赤が多く、つまり成せきが悪く、大変なのだと思いました。しかし、よく見ると、『恒久的な森林伐採』は目ひょうを達成しています。つまり、スندا

ルさんががんばった結果が出ているのです。それでも赤が多いので何とかしてあげたいと思いましたが、わたしができることはあるのでしょうか。すると母は『個人でできる10の行動』という紙を見せてくれました。『野菜をもっと多く食べる』これならできそうです。

「SDGsってジブンゴトとして考え、行動することが大切なんだよ。スンドルさんが行動したことってどれだと思う？」と、母に聞かれました。木を植えたことはどれにも当てはまりません。スンドルさんは一人ががんばって木を植えたのではない...。「みんなにきょう力してほしいと頑張ってたのんでたよ。つまり「声を上げる！」。インドが大変だからきょう力しようとみんなに言えはいいのかな、とつぶやくわたしに、母は、インドだけじゃないよ、と南スーダンはの真っ赤なページを見せてくれました。「大切なのは、まず知ること。スンドルさんのおかげで色んなことを知ったでしょ。」

わたしが知ったことを、まず友達に知らせればいいのです。そして聞いた人も知らせて、できることをふやせばいいのです。だれ一人のこさず、みんなに知らせ、みんな、みんなのためにできることをする。そうすれば、スンドルさんの村のように世界中の人たちが安心して生活できるようになるはずですよ。

「スンドルくん。教えてくれてありがとう。」

※「111本の木」という本を読んで書いた読書感想文です。とちぎYMCAメンバー 小学3年 花田 里実 本の詳細はP6にて。

とちぎYMCAの使命。 ～みつかる。つながる。よくなっていく。～

2022年度とちぎYMCA年間聖句

何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。
(ピリピ人への手紙 4章6節)



認定こども園 さくらんぼ幼稚園

運動会

10月1日に年少、年中、年長の運動会を戸祭小学校の校庭で行いました。また、10月20日には、0歳、1歳、2歳、満3歳の運動会をさくらんぼ幼稚園の園庭で行いました。以下、各学年のクラス担任のコメントです。

【年少】

小学校で行う初めての運動会では、学年で楽しみながら練習してきた「そらそらそうめん」を元気いっぱい踊ることが出来ました。それぞれが楽しい気持ちを表し、最後まで頑張りました。かけっこや追いかけて玉入れでも「一番になるぞ」の気持ちで駆け抜けることが出来て、全員金メダルに大満足した運動会でした。



ちゅうりっぷ組担任 横田 美由紀



【年中】

練習時間が短い中、不安な気持ちを抱え当日を迎えました。しかし、そんな中でも子どもたちの力は素晴らしく、クラス・学年で心と力を合わせて一生懸命練習してきたことを発揮することができました。

運動会が終わり、一人一人が自信に満ち溢れた表情でキラキラと輝いていたのは、汗と砂で汚れた体操着が心地よいものだったからでしょう。きっと子どもたちにとって、とても素晴らしい1日になったと思います。この姿を見ることができたのもご協力いただいた関係者の皆様と、温かい保護者の方々の応援のおかげです。ありがとうございました。

ばら組担任 荻田 滯奈

【年長】

年長さんにとって、さくらんぼ幼稚園での最後の運動会。短い練習時間の中で一生懸命練習に取り組んだ子どもたちです。練習の成果が出せるのか各担任はとてもドキドキでしたが、組体操、綱引き、障害物走、ソーラン節、クラス対抗リレーと、元気一杯で本番に強い子どもたちなのだと思い、友だちと力を合わせて頑張る姿に感動しました!!保護者の皆様、温かい声援をありがとうございました。

もも組担任 薄井 祥代



【ひよこ組 / りす組】

ひよこ組・りす組にとって初めての運動会!練習から嬉しそうに参加する姿が見られました。本番も大好きなアンパンマンの体操をし、ディズニーの玉入れやミニオンの障害物競走を楽しむことができました。目をキラキラと輝かせながら競技に参加する子どもたちや子どもたちのために頑張る保護者の皆さまの姿に私たちも元気をたくさんもらいました。閉会式ではドラえもんメダルを受け取り、笑顔いっぱいの運動会となりました。

りす組担任 金田 朋実

【まあがれっと組 / ぼびい組】

気持ちの良い秋晴れの中、欠席者0名、全員参加で運動会を迎えることができました。

まあがれっと組・ぼびい組は、友だちや先生たちと練習を重ね、成長した姿を見ていただいたかけっこ開会式、大好きなおうちの方と一緒に参加したゆうぎと玉入れと、2種類の姿を見ることができました。

かけっこで転んでしまった時の泣き顔、ゆうぎのたかいたかひの嬉しそうな笑顔、玉入れの時の一生懸命な顔、最後まで頑張ってメダルとプレゼントをもらった時の達成感の顔、全てが素敵な思い出と素敵な経験になったと思います。

幼稚園の園庭での運動会は最後...来年の運動会は小学校の校庭ですね!みんなの成長した姿を見ることが今から楽しみです。お忙しいところお越しいただきありがとうございました。

ぼびい組担任 平石 くるみ



ようとう保育園 幼児組 交流保育

昨年に引き続き、9月は『夏のアソビイベント月間』として、毎週、幼児組共同での活動を行いました。今年は更に、『芸術の秋～アソビの思い出を形に残そう～』をねらいに作品を展示することで、乳児組の子どもたちや保護者とも一緒に楽しむことができました。



第一弾は、「垂らし絵・吹き絵」水で溶いた絵の具を垂らし、ストローで「ふっ!」と吹くと、思いもよらない形に広がっていき、想像力が膨らみます。おぼけ、深海、宇宙...と見立て、画用紙の飾りなどで世界を作り上げました。

第二弾は、「フィンガーペインティング」段ボールやビニールなど様々な素材を用意しま

したが、やっぱり一番のキャンパスは自分の体!始めは指先で塗っていた子も徐々にダイナミックになり、腕、足、顔とカラフルなボディペインティングへと変わっていく姿は、とってもいきいきと輝いていました。

最後は、「泡絵の具」石鹸を削って泡立てるのは、年長児の役目。泡作りは春先から何度も繰り返してきたので、すっかりお手の物です。しかし、そこに洗濯糊を加えると一気にもったりとなり、初めての感触に驚きの



声を上げる子どもたち。出来上がった泡絵の具は、保育士と作ったドーナツにトッピングしたり、自分で描いた下絵で塗り絵にしたりと、同じ技法でも各クラスの発達に合わせた作品となりました。

年下の子を思いやり優しく教えたり、年上の子に憧れて真似をしてみたりと、お互いに刺激を受け成長していけるように、今後も異年齢児交流を図り、仲を深めていきたいと思

3歳児うぐいす組担任 石田 佳菜



～子どもの家だより～ 瑞穂野南小子どもの家(みずほのぼぶらクラブ) クラブ独自の遊び:バッカン!!

みずほのぼぶらクラブは田畑の真ん中に建っている瑞穂野南小学校のランチルームの一角を利用して開設している放課後児童クラブです。

1年～5年生まで総勢21名とこじんまりしているクラブですが・・・子どもたちは、素直で明るくおおらか!何事にも一生懸命に取り組む子どもたちです。

おやつ後の外遊びでは、サッカーやパレー



ボール、鉄棒、虫取り、なわとびなど色々な遊びをしている中で、子どもの誰かが「バッカンやろう!!」と声をかけると、「やる～、私も入れて～オレもやる～」と人が集まり鬼を決めてスタートです!「バッカン」とはかくれんぼの進化版の遊びで、このクラブ独自の遊びです。鬼が30秒数えているうちに、隠れて・・・その隠れた子達を鬼が次から次へと見つけては「○○さんバッカン」と言って鬼がスタート時の柱にタッチをする遊びです。

毎日学年を問わず「バッカン」をして遊んでいます。

主任支援員 大塚 美都子

開所しました!

親と子どもの居場所 めいめい

【親と子どもの居場所めいめい】は8月より宇都宮市の委託事業として始まりました。めいめいがどんな場所かといいますが、子どもや保護者のための家でも学校でもない第三の居場所。すべての子どもたちがさまざまな経験や学習、いろいろな人との繋がりを持ち前向きな気持ちや生きる力を育み、保護者のみなさんの家事や育児に負担が軽減できるように、一人ひとり(めいめい)、家族や家庭ごとの状況に応じて、包括的にサポートする場所を提供しています。めいめいを通して遊びや体験、学習習慣、生活習慣をその子に合わせて行っていきます。また、保護者の皆さんには子育てや家庭での悩み相談などさまざまなサポートを行っています。めいめいでは夕食の食事提供も行っており、家庭的な雰囲気季節を感じるこのできる食事を作っています。



開所日時は毎週水・金曜日15:00~20:00で宇都宮市の18歳までのお子さんとその保護者の方であればどなたでも(定員あり)ご利用いただけます。月に2~3回ほどイベントや体験の機会を行えるようにたくさんの企画を用意しています。10月にはハロウィンパーティーを行い、色画用紙でジャック・オー・ランタンを作りました。帰りの際に「トリックオアトリート」と子どもたちに声をかけてもらいお菓子の配布を行いました。さまざまな体験や経験を通して成長してくれることを願っています。また、食品の寄付やボランティアなどさまざまなサポートをしてくださる方々、温かい支援をお待ちしております。たくさんの方にめいめいを知っていただき、様々な方に繋がり利用していただけることを願っております。

宇都宮市青少年活動センターライ東

青少年デーイベントを開催しました

9月28日(水)に青少年デーイベントを開催致しました。

まず、ライ東では青少年デーという、体育館にて毎週水・土曜日夜間17時~21時の時間で開催している中高生が予約なしで利用できる時間があります。

そして、青少年デーイベントとは、毎月最終の青少年デーにて、17時から10分~15分程度のイベントを行うものです。

今回のイベントの内容はバスケットボールで、参加者一人ひとりが1分間シュートを打ち続けて何点入れられるかを競い合うものです。

チャレンジ精神溢れる中高生にとって魅力的なイベントを企画致しますので、これを機に中高生同士の交流が深まればと願っております。

今回は、令和4年度の新たな企画としてのイベント開催でしたが、青少年デー利用の中高生の半数以上の参加があり、参加された中高生は、自分の番では笑顔を見せながらシュートをし、入ったときは「よし!」と喜びを見せ、外してしまったときには悔しがるよう



な姿もありました。また、後ろで順番待ちをしている時にも、挑戦をしている友だちを応援するなど、交流の様子も見ることができました。そして競技後は「〇〇本入っていたね!」や「惜しかった!」と会話を楽しむ姿もありました。今回参加できなかった方にも挑戦してみたい競技を伺ったところ、バドミントンという声が多かったため、今後はそのような意見も取り入れながらの開催を考えております。

また、様々な競技を短い時間で楽しむことができる工夫を考え、沢山の中高生が参加したくなるようなイベントの開催を目指して参ります。

興味を持たれた方はぜひ、11月19日(土)、12月17日(土)の17時より、ライ東の体育館でお待ちしております。

特別養護老人ホームマイホームきよはら

タイ王国よりお客様がマイホームきよはらに!



9月21日(水)にタイ王国より、クライルーク社会開発・人間安全保障大臣及びアラヤクン社会開発・人間安全保障省事務次官、ピッタヤノラセット高齢者事業局長など、9名の訪問団が来日し、特別養護老人ホームマイホームきよはらに訪問されました。

意見交換会では、塩澤総主事の他、鷹箸代表、鈴木理事長(社会福祉法人)、山田理事が同席し、マイホームきよはらの概要、日本の高齢者福祉の現状、日本における海外をルーツとする方の高齢者分野の労働状況など、積極的な質疑応答・意見交換を行うことができました。NPO法人デックタイグループ様による訪問対応、通訳等のご協力を頂き、実り多き時間となりました。また、クライルーク大臣よりタイ王国王室の記念品を頂きました。

第15回とちぎYMCA インターナショナルチャリティーラン2022の報告

この度は、標記大会の開催趣旨をご理解頂き多くの皆様よりご支援ご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

何より今大会は「なんとか開催できた」という色合いの濃いものでした。今更説明の必要はありませんが、引き続きのコロナの渦中にて2020年度、2021年度と開催を見送り、このままこの大会自体も意義も趣旨も風化してしまうのではないかと焦燥感がありました。オンラインにてバーチャルチャリティーランは開催しておりましたが、やはりリアル開催でないと感じられない何かが人間である私たちにはあるのでしょうか。



通常、私たちとちぎYMCAでは6月下旬にチャリティーランを開催しておりました。しかしながら、この時期の開催に踏み切れることを昨冬から続いていたオミクロンの渦中で決めること

はできませんでした。従って、過去2か年の経験から10月～11月では一旦状況が落ち着くことを学んでいた私たちは10月開催の可能性に一縷の望みを託すことにしました。それは、今夏の第7波の中でもすれば消えてしまいそうな様相を呈していました。

そして今回、何とかリアル開催に踏み切ることができました。今回も前回、前々回と使用し大変好評だったことから、引き続き「道の駅うつのみやろまんちっく村」にて開催いたしました。秋雨前線も活発な中、予報もコロコロ変わり、天候が心配されましたが”例年通り”皆さまの願いが届き奇跡的な好天に恵まれました。気持ちのよいそよ風が吹く中力強い宣誓で開会されました。メイン競技の「たすきリレー」には25チーム・スタンプラリー参加者102人・前回大会から新たな試みでイベントに加えた『ファミリー・ラン』参加者50名、スタッフ、ボランティア148人、来場者数を合わせると総勢550人弱(535名)の参加がありました。流石にコロナの影響で例年に比べ参加チー



ム等大幅減となりましたが、久しぶりに見る清々しい顔・顔・顔。「走るのってこんなに気持ちいいものなんですね」と仰ってくださったり、人とひとが明確につながることを肌で感じる喜びと共に皆が一つの目的に向かい集うチャリティーランは《オールとちぎ》

としての重要なイベントの一つになっています。大真面目に走っている大人も、親子で楽しそうに走る姿も、仮装して楽しんでいるユースたちも、多様な参加者が「ひとつになっていく」という実感を目の当たりにする象徴的な光景でした。伴走者と共に視覚障害のランナーも自分のペースを保ちながらの安定した走り、仲間へのリスペクトで懸命に走るランナーに大きな声援を送る人たち...と皆が《いい顔》をしていました。その《いい顔》には会場ボランティアの尽力は欠かせません。人を思う気持ちが一つになるからこそ《笑顔》のチャリティーランになるのだと思います。『YMCAのチャリティーランやっぱり楽しい!』と叫んでくれた姿が全ての人へ、『つながる』ことへの喜びを表現してくれているように思えました。楽しい大会にしてくれた全参加者一人ひとりにとって『みつける、つながる、よくなっていく』大会であつたろうと思います。

この大会が企業と市民の協働として年々県内に拡がりをもせ、障がい児・者と全ての人々が共に健康で幸せな暮らしができるノーマライゼーション社会づくりの一助となることを願い、これからもご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

尚、とちぎテレビ、宇都宮ケーブルテレビにてイベントの様子を地域ニュース報道として放送していただきました。

略儀ながら取り急ぎ書面により大会開催のご報告とご協賛へのお礼を申し上げます。誠に有難うございました。

公益財団法人とちぎYMCA理事長 鷹箸 孝
とちぎYMCAチャリティーラン実行委員長 岡田 孝司

1st step (おやこ英語クラス) がスタート!



宇都宮東YMCAでは、10月より新しく「1st step おやこ英語クラス」が始まりました! 未就園児親子を対象として、講師のリーアン先生と一緒に英語に親しむ半年コースとなります。

こちらのクラスの特徴は、英語の絵本や歌を通して英語に慣れると共に、Jolly Phonics (ジョリーフォニックス) のカリキュラムを取り入れているところです(フォニックスとは、英語圏の子どもたちに読み書きを教えるためにつくられた、文字と音の規則性を教えるための指導法です)。絵本のお話や歌、アクション(動作)などを取り入れて進めますので、フォニックスが初めてのお子さまも楽しく始められます。

1st step の生徒さんたちも可愛らしい小さな手でリーアン先生のアクション(動作)を真似ながら、”a, a, apple” や ”s, s, snake” と練習していますよ! スタートしたばかりのクラスなので、皆様のご興味があるものをたくさん取り入れながら、一緒にクラスを作り上げていければと思っています。新入生も大募集中です! どなたでもお気軽に体験にいらしてくださいね♪

【実施報告】

日本におけるウクライナ避難民支援チャリティーコンサート



9月27日(火)に栃木県総合文化センターにて「とちぎYMCA 日本におけるウクライナ避難民支援チャリティーコンサート」が開催され、260名以上の方にお越しいただきました。コンサートでは、ピアニストの大野紘平氏(とちぎ未来大使)とトランペッターの田尻大喜氏(友情出演)にお越し頂き、素敵な演奏を聞くことができました。「ひまわり」など、ウクライナに関連する曲を演奏して頂き、コンサートに集う皆が、困難にある方々のことを覚え、平和を願う気持ちを共有することができました。また、在日ウクライナ大使館からのビデオメッセージを頂き、オンライン会議システム ZOOM を通して日本YMCA 同盟スタッフの石橋氏より、YMCA におけるウクライナ避難民支援の報告をさせて頂きました。

今回のコンサートの益金は、世界の YMCA と連携して行っている避難生活を送るウクライナの人々の支援、および日本国内に避難を希望する方々の受け入れと生活・就労・教育などのサポートのために用います。

コロナ禍における開催でありましたが、感染拡大防止対策における皆様のご理解・ご協力を賜り感謝を申し上げます。

【実施報告】

東小学校でキャンプファイヤーを行いました!



10月1日(土)に東地区子ども会連合会主催『第6回学校に泊まろうデイプログラム』が宇都宮市立東小学校で開催されました。東小学校の子どもたち20名が集まり、地域の方が提供するカロリング体験会や工作体験、キャンプファイヤー、花火大会を行いました。今回、子どもたちへ豊かな体験を提供できるよう、YMCA スタッフ1名がデイプログラムのお手伝いをさせて頂きました。本来は夏休みに宿泊キャンプとして開催する予定でしたが、感染拡大時期となったため延期となりました。半日のみの実施と

なりましたが、盛況のうちに終了することができました。また、今回は宇都宮リーダーズクラブ(ULC)の高校生の皆さんと協働してプログラムを展開することができました。このプログラム協力は昨年度に引き続き、2回目となりました。宇都宮市の中心部にある小学校の校庭で、火を囲み、共に楽しむ時間は、子どもたちにとって素敵な思い出になったと思います。

荒井 浩元



子どもたちの権利を守ります!

「せかいこどものひ」プロジェクト

「世界子どもの日」とは

11月20日の「世界子どもの日」は、1954年、世界の子どもたちの相互理解と福祉の向上を目的として、国連によって制定されました。その後、1959年11月20日に国連総会で「子どもの権利宣言」が採択され、さらに30年後の1989年11月20日、すべての子どもに人権を保障する初めての国際条約『子どもの権利条約』が、国連総会で採択されました。どのような時代・場所であっても、子どもに関わるすべての人がこの条約でうたわれている権利が実現されるように取り組むことが必要です。そして

何よりも、子どもたち自身が、自分たちの持つ権利について知り、学び、声をあげていくことがとても大切です。

「子どもの権利条約」子どもがもつ権利は、大きく分けて4つで、①いきる権利 ②そだつ権利 ③まもられる権利 ④さんかする権利 です。私たちは11月20日に#Go Blue(ごーぶるー)運動としてユニセフのイメージカラー「あお」のものをみにつけてこれらの権利を尊重していきます。ぜひ皆様もこの運動にご協力ください。



YMCA ウクライナ支援活動の報告

ウクライナ支援について世界と日本のYMCAの活動を報告します。
(日本YMCA同盟の通信より)

■ウクライナ YMCA から、7 か月間のレポート

9月24日に届いたレポートによれば、ウクライナ国内20カ所のYMCAはいずれも無事で、現在はメンタルサポートを中心に青少年のキャンプやストレス対策講座などを開催。世界中からの募金により累計9万人以上に支援が提供されたことが多数の写真とともに報告されている。

■ヨーロッパ同盟

フランス、ポーランド、ギリシャなど7カ国の支援活動の近況が発信された。教育や就労支援、キャンプやスポーツによる精神的ケアなど、それぞれに工夫して避難者を受け入れている様子がまとめられている。ポーランドから日本への避難支援についても報告されている

■ウクライナ避難者へ「心のケア講座とアートワークショップ」開催

避難生活の長期化に伴い、不眠や不安などを掲げる避難者が増えていることから「Ukraine Café HIMAWARI」*では9月25日、「リフレッシュして秋を迎えよう」をテーマに、心のケアについての講座と子ども向けのアートワークショップを開催。60人が参加した。*「Ukraine Café HIMAWARI」は新宿区四谷にあり日本に避難中のウクライナ人の交流・学びの場となっている。

■【朝日新聞に掲載】いま聞く「ウクライナ避難者支える思いは」

日本YMCA同盟のウクライナ避難者支援プロジェクト責任者である横山由利亜さんの記事が、9月16日の朝日新聞夕刊に掲載された。現在の活動の様子とともに、支援に携わった経緯やYMCAの願いが紹介されている。

■とちぎYMCAでチャリティーコンサート開催

日本への避難者支援のため9月29日、ピアニストの大野紘平氏（とちぎ未来大使）とトランペッターの田尻大喜氏の出演によるチャリティーコンサートを開催。260人余りが来場した。

*青色下線部のweb検索で詳細情報を見ることができます。



↑ Ukraine café HIMAWARI での、「ダイナミック・ペインティング」ワークショップの様子。

月刊# (ハッシュタグ)

第18回 #なにそれなにそれ

とちぎYMCA総理事
塩澤 達俊

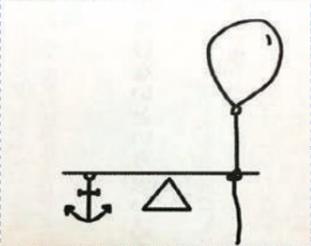
#陽気さ #Humor, Seriously #マークトウェイン #マインドセット

YMCAは歴史的に体育教育（なかでも子ども）に有名で「運動ぎらいの子どものための体育教室」にいち早く取り組んだユニークさがあります。先人たちは「運動やスポーツ」と聞いただけで毛嫌いしてしまおうなひとたちにも「人間にもともと備わっている身体を動かす喜びを味わってほしい」と願い、身体を動かす喜びという人間らしさの受け入れ、をきっかけに全人的成長へとぎざなつたのでした（と思います）。

いまYMCAは《ポジティブ・ウエルビーイング》というコトバを使って、より幸福感と肯定感にあふれる新しい人間の在り方を求めています。

ウエルネスにとって「もともと備わっている人間的な喜び」を積極的に受け入れることの体験が全人的成長へのマインドセット（心構え）であったように、《P・ウエルビーイング》のためのマインドセット（心構え）に近ごろ出会いました（『ユーモアは最強の武器である』という本を読みました）！

陽気さはバランスをもたらす



それは、「陽気さ」です。『ユーモアは人類の最高の宝物だ』とは作家マーク・トウェイン（トムソーヤの冒険）の言葉だそうですが、ユーモアが大切なものであることは毎日の生活でも実感できますね。

例えば、ユーモアと笑顔と笑いとが、人と人をつなぎ、喜びを分かち合い、困難を乗り越える力となり、平和をもたらし、免疫力まで高め、心身の健康さをもたらしてくれます。

運動ぎらいの子どもたちにとって身体を動かすことの喜びを感じるマインドセットを手にすることが人間らしさ受け入れのスタートであったのと同じように、わたしたちがユーモアという宝物を手にとり、P・ウエルビーイングで行く！ためには、「もともと人間に備わっている、陽気さを好み大いに楽しむというマインドセット」、「もっと陽気さをもって世の中に向き合う方法」が必要なようです。

ギャグやダジャレとしてではなく、「陽気さ」というマインドセットのうえに運動能力さながらユーモアを鍛えるアクションとしてP・ウエルビーイングは姿を現わすのかな^^

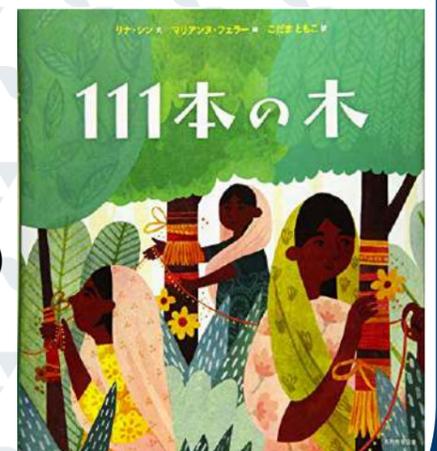
巻頭言より

「111本の木」

女の子が生まれると、111本の木を植えておいわいする村があります。ほんの少し前まで、インドのある村では、古い習慣を守ってくらしていました。その村では、男の子が生まれると、なべやフライパンをたたき、おかしを食べておいわいしました。一方、女の子が生まれると、家は静まりかえってしまいました。……ところが今では、村はすっかり変わりました。それは、一人の村長さんが始めた活動です。

- 女の子が生まれるたびに木を植えて、破壊された自然を取り戻そう
- 女の子にも男の子と同じように学ぶ機会を与えよう
- 18歳になるまで結婚させないようにしよう

村長さんは村人たちを説得してまわり、村人みんなでこの活動に取り組んだのです。



書名： 111本の木
作者： リナ・シン（著）
マリアンヌ・フェラー（イラスト）
こだまともこ（翻訳）
出版社： 光村教育図書
発売日： 2021年2月2日
ページ数： 36ページ